

メマツヨイグサ

Oenothera biennis

アカバナ科



メマツヨイグサ

名前の由来

「メ」は類似種のマツヨイグサより小型なため。「マツヨイグサ」は花は夕方になると咲き始めるため、宵を待って咲く花と言う意味で名付けられた。漢字名：雌待宵草

形態的特徴

高さ0.5~1.2mになり直立する。茎には上向きの毛があり、ざらつく。葉は線状長楕円形で先はとがり、縁に波状の鋸歯がある。葉先や葉の中央を走る葉脈はしばしば赤味を帯びる、花は黄色で直径2~3cm、花びら（花弁）は4枚で、茎上部の葉腋や枝の頂部に付く。

類似種と見分け方：オオマツヨイグサ。

オオマツヨイグサの花は大きく、直径8cmほど。根元から生える根生葉の先端は円く、葉の中央の葉脈は赤味を帯びることはない。

生育環境・分布

荒地や空き地、道端、河原などに生育し、ときに大きな群落をつくる。

分布：国外分布は、北アメリカ原産で、ヨーロッパ、アジアやオーストラリアに帰化している。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、荒地や空き地、道端、河原などに普通に見られる。ときに大きな群落をつくる。



メマツヨイグサ。左上は花、左下はロゼット葉

生活史

開花時期：7~9月。開花までの年数：2年。

寿命：2年草。

他生物との関わり

マツヨイグサの仲間のみな夜に花をさかせ、夜でも花粉を運ぶ昆虫に見えやすいように明るい黄色になっている。夜行性のスズメガが花粉を運ぶことが多いが、スズメガの体

は鱗粉で覆われて花粉が付きにくくなっている。そのためマツヨイグサの花粉は糸でつながっていて、少しでも花粉が引っかかるとたくさん運ばれるしくみになっている。

興味深い話

■明治年間に帰化したとされる。

■花は夕方咲き、翌朝しぼむ。つぼみがある程度開くと、

数分の内に一気に開花する。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙譚 自費出版 2001

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「花のおもしろフィールド図鑑 夏」ピッキオ 実業之日本社 2001

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(草花)
在来種

(草花)
外来種

哺乳類

(鳥)
水辺類

(鳥)
草原樹林類
ワシ・タカ